

# 令和4年度 武蔵村山市立学校 学校経営方針

学校名 武蔵村山市立第十小学校 校長名 中村 清敬

公印

## 教育目標

- ◆ やる気いっぱい <自分で考える子>
- ◆ 笑顔いっぱい <自分も友達も大切にする子>
- ◆ 力いっぱい <じょうぶでたくましい子>

## 1 目指す特色ある学校像

『子供と大人がいつも寄り添い、共に学び、一人一人が成長を実感できる学校』

- (1) 児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして伸びる喜びをつかむ。
- (2) 朗らかな気持ち（心）で、自分も他人も大切にすること。（相手の心をよむ）
- (3) 体力向上の活動に自分から進んで参加し、健康でたくましい体をつくる。

合言葉 = 「スマイル&ポジティブ」

## 2 学校経営の目標

### (1) 中期的目標

- ア「意欲をもって学ぶ力と、学習に責任をもつ感覚を育てる」<学びのエンジンを動かす>
  - ・学ぶことのよさを感じ、学習を自分で確実に進められる。
- イ「自分のよさを知り、友達のよさを実感する」
  - ・自分をしっかり見つめられる（自己内対話できる）
  - ・自分が好きになる→友達が好きになる <自分が好き、みんなが好き>
- ウ「体育授業や体力向上の取組の充実により、運動の楽しさを体感する」
  - ・困難に突き当たっても、くじけず、前向きな心で取り組む <ポジティブな思考>
- エ「保護者や地域と、共に歩む学校」
  - ・子供と共に保護者や地域の気づきが生まれ、互いに喜びを共有できる。

### (2) 本年度の目標

- ア 学びに向かう姿勢を育てる <午前5時間制の生活時程導入>
  - ・課題解決的な学習を推進し、児童の学びを充実させ、集中して考える力を養う
  - ・早寝、早起き、生活時程の定着 → 午前の授業を充実させ、学習効果を高める
- イ 自尊感情を醸成する
  - ・好ましい生活習慣を確立させ、互いのかかわりをより良いものにしていく。
  - ・学校生活の中で、子供同士が互いのよさを確認し、それを受け入れ、尊重し合う。
  - ・自分自身の成長を実感することで、自信をつけさせる。
- ウ 健康についての意識増進（明るく元気・心身共に健康な子、意識向上）
  - ・心身の健康や体力向上に配慮した教育計画を作成し、通年で実践していく。
  - ・日常的、あるいは季節的に取り組む活動などの取組を設定し、推奨する。
- エ いじめを許さない校風づくり
  - ・保護者や地域と協働による、好ましい教育環境の構築と維持。
  - ・学校運営協議会（学校・校区）との協働事業の充実。

### 3 目標達成上の課題

- ・午前5時間の生活時程に慣れる。前向きに学習する習慣を定着させる。  
(学習意欲を喚起する授業。深い学びを促す授業づくり。授業の工夫と改善。)
- ・道徳教育に関連した生活指導および特別活動を展開する。  
(道徳教育等の長期的な対応と生活指導等の短期的な対応の両輪を大切に取り組みこと)
- ・体育等、運動量を確保する活動の、継続的な実施と、児童の実態把握の精度向上。
- ・組織を機能させたいじめ対策および、保護者地域と協働する活動の充実。

### 4 経営の具体策

- 学びに向かう姿勢を育てる(学習する楽しさを実感させるために)
  - ・課題解決的な学習を推進し、考える力を養う。
  - ・形成的評価を重視した授業により、自信をもって学習に向かう力を育てる。
  - ・家庭学習、反復練習の意識付けを図り、音読、漢字、基礎計算の習熟を徹底する。
  - ・ICT活用教育を推進し、個の学力の向上を図る。
  - ・「字を丁寧に書く」ことの指導を通じて、学びの質の向上を促す。  
→『十小ひらがな検定』(任意)を核の活動として推進する。
  - ・作文指導を年間計画に位置付け、書く力を養う。(→異学年交流や文集など)
- 自己有用感の獲得 → キーワード「自分が好き、みんなが好き」
  - ・道徳授業の充実や全校道徳の実施による心の教育の推進
  - ・「関わる喜び」が獲得できる異学年交流活動を計画的に実施することで、  
人と関わる欲求を年間で刺激し、社会性の基礎を6年間かけて育てていく
  - ・「挨拶」及び「椅子を入れる」指導を常時行い、他者視点の意識を育てる。
- 健康意識の増進(体を動かす楽しさを実感させるために)
  - ・運動量を確保するなど体育授業を充実させ、たくましい体をつくる。
  - ・中休みや昼休みの外遊びを奨励し、体を動かす意識を向上させる。
  - ・長縄跳びの活動を定期的実施し、また学級での取り組みを通して、  
児童の体力向上を促進する。(体力テストの結果を分析する)
- いじめを許さない校風づくり(安全・安心な学校生活のために)
  - ・人権教育と豊かな人間性を育むための道徳教育を推進する。
  - ・特別活動の工夫とその実施により、よりよい人間関係を育む。
  - ・早期のいじめ等の把握と対応に努め、いじめは絶対に許さない姿勢を毅然と示す。
  - ・学校教育活動を、保護者・地域に情報発信し、学校への連帯感を高める。

#### 小中一貫教育推進に向けた方策

- ・「なめらかに、育ちをつなぐ幼保小中の連携」を視野に入れ、保育園や中学校の教員と情報交換を行う。(保育園運動会の参観、合同研修会を通して)
- ・様々な交流活動を通じて、年齢の違いに応じ、互いに理解し助け合って生きていくことの大切さを学ばせる。(五中校区サミット、挨拶運動、読み聞かせ活動、ボランティア活動)
- ・小中連携した合同研究を推進する。(合同研究授業、校内研究への相互参加、合同研修会)

### 5 年度末のチェックポイント

- ・各学年の基礎基本の定着度(漢字習得率と計算力)について90%に達しているか。
- ・自尊感情測定尺度で、プロフィールが好転した児童の割合が80%に達しているか。
- ・学校評価アンケートで、教師への信頼度がA、B評価合わせて90%に達しているか。
- ・学校評価アンケートで、学校と保護者、地域との連携についてA、B評価合わせて80%に達しているか。